

「令和5年度 飛島村教育委員会に関する  
点検及び評価報告書」の意見聴取会  
【まとめ】

令和6年6月27日開催

飛島村教育委員会

## 意見聴取会（要旨）

《招集年月日》 令和6年6月27日（木）

《招集の場所》 飛島村中央公民館 3階 第1会議室

《開会》 午後2時

《閉会》 午後3時35分

### 《点検評価委員》

愛知教育大学 研究補佐員	高橋 央樹 氏
名古屋芸術大学 教授	早川 浩史 氏

《欠席委員》 なし

### 《職務のため出席した職員》

教育長	萩野 登記代
教育課長	成田 雅恵
生涯教育課長	伊藤 澄雄
教育課主幹	五島 正和
図書館兼プール館長	鈴木 勝次
教育課主任	奥村 義明

### 《議事内容及び経過》

別紙のとおり

別紙

《議事内容及び経過》

## 1 教育長あいさつ

本日は、高橋委員、早川委員にお越し頂いて、令和5年度の教育委員会に関する点検及び評価報告書の意見聴取会を開催させていただきます。

令和5年3月に第5次飛島村総合計画が策定され「災害に強い、活気・魅力・人づくりの村」を将来の未来像として掲げております。それを受けて飛島村教育大綱も3月に新たに策定しており、昨年度の取組が1年目として始まっています。コロナが5類に移行されて約1年が経過しており、教育委員会主管の活動も徐々に戻りつつあります。

教育委員会は村民の笑顔を直に感じることができる場所だと思っています。

本日は、経験豊富な先生方から報告書を基に忌憚のないご意見、ご指導を賜り、前向きに取り組んでいきたいと思っています。

## 2 教育委員会に関する点検及び評価報告書について

### 意見聴取

- (1)「Ⅰ 飛島村の教育指針」から「Ⅲ 教育に関する事務の点検評価」について」
- (2)「Ⅳ 教育委員会の取組について」

### 【高橋委員】

「飛島学園」の義務教育学校としての特色と課題についてどのようなものがあるかをまとめて示してもらえるとわかりやすいと感じた。また、以前の小中一貫教育校と義務教育学校での組織、取組や成果の違いについて触れられていると、義務教育学校としての価値がより明確になると思われる。

全国の他の義務教育学校との交流や情報交換の状況はどのようなになっているのか。

### 【教育長】

今現在、義務教育学校は全国で207校、交流や情報交換の場としては、毎年1月に行われる、小中一貫教育全国シンポジウム等に参加しています。他校でどのような取組がされているのかを学びながら、可能なことは取り入れながら進めています。

今年の1月に東京都品川区で開催され、豊葉の杜学園を視察させていただきました。目的に応じて、学園と教育委員会の職員で先進地の視察に行くようにしています。

近い所では三重県いなべ市の藤原小中学校など、コミュニティ・スクールや部活動の地域移行、探究学習の進め方等について視察を行い、情報交換を行いました。

### 【早川委員】

愛知県独自の取組である「ラーケーションの日」が始まったが、事前の申請方法や給食欠食の取り扱い等、県内には対応に苦慮している自治体があると聞いた。飛島村においてはどのような状況なのか。

### 【教育課主幹】

令和5年度は、10月から1日取得可能とし、取得状況は前期課程40名・取得率15.0%、後期課程9人・取得率6.4%、取得した家庭は前期、後期課程を合わせて36家庭でした。

申請方法は、飛島版のラーケーションカードを作成し、その用紙を提出してもらいます。給食については令和5年度から無償化としているため、困った事例等はありませんでした。

### 【高橋委員】

学園としての防災、減災教育の取組状況や施設面での対応状況がどうなっているか。

### 【教育課主幹】

学園では避難訓練を年3回実施しています。1月の3回目の避難訓練は、予告をしない形で実施しております。また学習面では総合的な学習の時間と生活科を中心とした探究学習「飛島未来探究科（TOBI探）」を行っております。9年生では、9年間総まとめとしてグループごとに「防災」をテーマにした探究学習に取り組み、実践的な自助共助ができる防災力の向上を目指しています。

### 【教育課主任】

施設面については村の指定避難所であるため防災ボックスが設置されています。地震発生時には防災ボックスから鍵を取り出し、学園アリーナに避難できるようになっています。またアリーナには、全生徒・教職員分の救命着も設置されています。

### 【早川委員】

新型コロナウイルス感染症に関することで学園や図書館・プールにしても制限なく事業ができるようになったとのことだが、アフターコロナの現状はどの様なものか。特に飛島学園では何が変わり、何が変わらなかったのか。

### 【教育課主幹】

コロナ禍での給食は各教室でしたが、コロナ明けは再び全校一斉にふれあいホールでの会食を行っています。

またコロナ禍でタブレットの活用が急速に進み、学校閉鎖期間中は、オンライン授業を行っておりました。令和5年度からはタブレットの持ち帰りも行っております。コロナ禍明けもタブレット活用を継続して進め、各授授業でも率先して活用している状況から、同じ海部地区でも一番ICT機器の活用が進んでおります。

### 【早川委員】

ICT機器については、これからの子ども達に欠かすことができないツールです、主体的に活動を進めていくためにも必要なものです。何のために行事や教育活動があるのかも含めて「ねらい」を見極めながら進めていっていただきたい。

### (3)「Ⅴ 主な事業の取組状況」「1 学校教育・青少年健全育成」について

#### 【高橋委員】

タブレットについて他校では配布しても活用されていないとの状況も聞いているが、実際の授業の中での活用はどのような状況なのか。

#### 【教育課主幹】

令和5年度全国学力・学習状況調査での児童質問紙の結果からは、「昨年度までに受けた授業でICT機器をどの程度活用しましたか」に対して「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合は、前期課程で86.0%・後期課程で87.8%、愛知県小学校61.2%・中学校63.3%、全国小学校62.4%、・中学校61.1%、と比べて、飛島学園での活用頻度が20ポイント以上、上回っていることが現状となります。

学園では授業の振り返りをタブレットで入力して提出するようにしています。特に、英語教育に力を入れており、8年生の海外派遣事業と連携したオンライン英会話やオンライン交流で活用しています。また今年度からAIによる自動判定ができるアプリを導入して、より正しい発音で会話できるように英語学習も取り入れています。

タブレット端末の持ち帰りも行っており家庭学習だけでなく、欠席した生徒との連絡を取ることに利用しています。

#### 【教育長】

オンライン英会話は海外派遣に向けて、日頃から身に着けた英語力を発揮できるようにと始めました。AIアプリについては生徒たちがクイズ形式で楽しみながら英語力を身につけることができるもので、現在、試験的に活用を行っているところです。

#### 【高橋委員】

ICT機器は使っていればいいというものではない。いかに効果的に使うのか、必要がある時にすぐに使えるスキルを身に着けることが大切であり、今の学園での活用の方法については感心に値する内容であると思う。

#### 【早川委員】

個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指すTOBI探は、Society5.0の時代を生きる飛島村の子ども達にとって、必要不可欠で重要な学びと考える。今後も一人一台のタブレット端末の有効活用や、飛島村ならではの地元グローバル企業との連携を図り、村の子ども達を、国際社会で活躍できるグローバルな人材として育てていただきたい。

#### 【教育課長】

地元グローバル企業との連携、交流としましては、三菱重工業のロケット製造工場の見学や出前授業での交流をお願いしています。また川崎重工業によるロボットを活用したプログラミング講座を8年生が受講し、キャリア教育にかかわる出前講座もお願いし

ています。

**【高橋・早川委員】**

村雇用の非常勤講師が充実している。他校では教員の確保も難しく欠員状態が多いと聞いている。飛島学園や子どもたちにとって、とても有効で必要不可欠のものであると思うのでぜひ継続して行っていただきたい。

**【教育長】**

5年生以上は教科担任制を進めているので臨時免許での教科担当を避けるために技術、家庭科、美術、音楽等の専科を中心に配置できていると思っています。また初等部には担任1人では目が届かない場合があるので支援にあたる教員も配置しています。

#### (4)「2 生涯学習・スポーツ・文化」について

**【早川委員】**

生涯スポーツの観点から、部活動地域移行については、行政のリーダーシップや財政の状況により自治体間で差が出てきていると感じているが、現在の状況について教えていただきたい。

**【生涯教育課長】**

昨年度、地域のスポーツ関係者を中心に検討委員会を立上げ、協議を行いました。休日の部活動については、生徒、保護者、先生方の意見も聞き、結果的に民間業者委託となり9月から開始をする予定です。7月中に学園の先生方、保護者、生徒たち向けに説明会を実施する予定をしています。

それぞれの部活動では、専門の指導者からの指導が受けられるため、生徒にとって楽しく効果的な部活動になることを期待しています。

また、平日の部活動で指導にあたる顧問の先生とも連携し、休日の指導のみならず、平日の練習内容や方法、自主練習のアドバイスを受けるなど、専門的かつ民間の力を最大限に活用し、地域で喜ばれる部活動となることを期待しています。

**【教育長】**

大学生ではなく、その競技の指導経験がある指導者を派遣していただいて、生徒が土曜日に直に学んで、最終的には平日の部活動を自分たちで運営できるような、そんな力をつけさせたいと考えています。

**【高橋委員】**

図書館も、この地域でこれだけの規模の図書館を運営している自治体もそんなに無いと思っているが、どのような活動をしてみえるのか、また他市町の方も本を借りたり利用をしたりすることも可能なのかを教えていただきたい。

### 【図書館・プール館長】

図書館の行事としては、4月に子ども読書の日記念事業として図書館まつりを開催しています。また折り紙教室、人形劇、似顔絵教室、わらべうたの講座、読書感想文講座、読み聞かせ等も行っています。また、大人向けの行事としては一日図書館満喫体験の中でお片付け講座、折り紙教室、ブッカー貼体験等を行いました。海部地区管内の希望者には本の貸し出しは可能となっています。

## (5)「3 多様な人材の活躍・育成」について

### 【高橋委員】

長年継続されてきている海外派遣事業は、子供たちにとって英語学習の一助となるだけでなく、飛島村から世界へと関心を広げ、将来の自分の可能性を広げていく上で大きな役割を担ってきたと考える。コロナ禍による中断を経て新たな訪問先を選定して事業を再開したとのことだが、事業をやめるのではなく、継続していただいたことが素晴らしい。

コロナ流行以前に行っていた、リオビスタ市との相互訪問のような姉妹友好都市との交流活動は現在どのように行われているだろうか。

### 【生涯教育課長】

コロナの流行もあり、令和4年10月に今後の交流について首長同士、リモートで話し合う機会を設け、姉妹友好都市の関係は続けていくことを確認していますが、相互訪問のような交流活動は、相手方（リオビスタ市）の状況も変わったため現時点では行っていません。

一因として、30年来、交流事業はじめホームステイ仲介等でご尽力いただいていた方が高齢となり、安定したホームステイ先の調整を維持することが困難な状況になったことがあげられます。

### 【早川委員】

オーストラリアのケアンズ市を選定しての海外派遣事業再開は、良き判断であったと思います。実施しての成果と課題、今後の見通しについて教えていただきたい。

### 【生涯教育課長】

昨年は、2学年を2回に渡り、全行程3泊5日で実施しました。

終了後のアンケートでは「大変良かった・よかった」合わせ100%、最も印象に残ったプログラムが「ホームステイ（中3：56.1%、中2：51.2%）」という結果でした。

昨年は行程が短かったこともあり、ホームステイ期間が少ないという課題も踏まえ、今年は行程にゆとりをもたせ、ホームステイの期間を2泊3日としました。

これにより、生徒たちがより積極的に異文化にふれ、英語力を育み国際社会で活躍できることを期待しています。

### 3 意見聴取(全体を通じて)

#### 【高橋委員】

飛島村は一村一校で通学距離が長い地域もあるが、交通安全や熱中症対策として、遠くから登校する小さな子に対する対応とかは考えているのか。

#### 【教育長】

一番遠い地区である大宝地区の前期課程生徒を対象として令和5年度に遠方通学支援バス（熱中症対策）の実証運行を行いました。アンケートにより次年度以降も継続希望がありましたので、令和6年度も事業を継続している状況です。

#### 【高橋委員】

最近の気候変動も異常であり危険な状況もあり、子供の安心安全も考えて対応してみることがよくわかった。

#### 【高橋委員】

財政的に余裕があるからではなく、村民の幸せのための施策が行われていると感じました。図書館でも子供から大人に至るまで、様々な事業展開が実施されていることを伺い知ることができました。

#### 【早川委員】

教職員の働き方改革にしても進んでいないのが現状である、自治体や教育委員会のリーダーシップで大きく変えることができると思っています。

村民や保護者の思いやニーズを捉えた事業展開などがわかりました。財政が豊かだからできるではなく、本当に必要なことを実施する、そのために全力を尽くすというサポート力に感心しました。これからはウェルビーイングの時代がキーワードとなります。

飛島村にいるから幸せなんだと思えるような取組をお願いできたらと思っています。

### 4. お礼

#### 【教育長】

教育委員会全般に関わる活動につきまして、広くそして深くご指導をいただきました。具体的なご指摘をいただき、留意する点につきまして具体的なアドバイスをいただきましたので、今後の活動に生かしていきたいと思っております。私達が所管する学校教育や生涯教育においては、毎日の地道な活動がとても大切だと感じています。この活動が、村が目指す人づくりの部分を担当することで子供達が成長したり、将来の夢を描いたり、村民の皆様が活動を通じて楽しみや生きがいを感じることができるよう、時代やニーズに応じて改善・改革をいとわず、教育委員会全職員で頑張っていきたいと、先生方のお話を聞いて強く思いました。村民の笑顔をバロメーターとして、今後も事業を進めていき

いと思っております。ありがとうございました。